沖縄神殿のオープンハウス・奉献式を発表

――2023年9月から10月にかけてオープンハウス，11月12日に奉献式――

2023年4月18日早朝(日本時間)，日本沖縄神殿のオープンハウスと奉献式の日程が発表された。

オープンハウスは，9月21日(木)のメディアデー(報道関係者向け)，22日(金)の招待客オープンハウスを皮切りに，23日(土)から2週間にわたって一般オープンハウスが行われる(9月24日と10月1日の日曜日は休館)。最終日は10月7日(土)となる。

奉献式は11月12日(日)，10時からと13時30分からの2つのセッションが行われる。十二使徒定員会のゲーリー・E・スティーブンソン長老が奉献の祈りをささげる。スティーブンソン長老はかつて日本で専任宣教師また伝道部会長として奉仕し，アジア北地域会長も務め，日本語が話せる唯一の使徒である。沖縄神殿は奉献されると，東京，福岡，札幌に続く日本で4番目の神殿となる。

日本沖縄神殿

日本沖縄神殿オープンハウス・奉献式準備委員会の初会合にて

沖縄神殿の所在地は，沖縄県沖縄市松本7丁目11。2030平方メートルの敷地に2階建て，床面積は約930平方メートル。神殿参入者の到着センター(待合エリア)は，隣接する沖縄ワードの集会所に増築されている。ここには沖縄ディストリビューションサービスストア※1も併設され，神殿の奉献に先立ってオープンする予定である。

準備委員会が始動

去る2月26日には，「日本沖縄神殿オープンハウス・奉献式準備委員会」が組織され，神殿の隣にある沖縄ワードにて初会合が行われた。コーディネーターの安里吉隆(あさとよしたか)・敦子(あつこ)夫妻を筆頭に，10の小委員会(コミュニケーション小委員会，財務小委員会，歴史小委員会，ホスティング小委員会，音楽小委員会，駐車場・交通小委員会，施設小委員会，保安・セキュリティー小委員会，テクノロジー小委員会，アッシャー小委員会)でそれぞれ委員長が召された。沖縄軍人地方部のアメリカ人の委員長5人，沖縄の日本人の委員長5人と，日米の教会員が一丸となって準備を進めていく。そのため，各小委員会には通訳の責任を受けている委員もいる。

歴史小委員会のジル・キャンベル姉妹は，日程が発表されたときの気持ちをこう語る。「オープンハウスと奉献式の日程がカレンダーに載って，とても興奮しています。神殿を共有することになる沖縄の会員と一緒に(委員会の)仕事をし，共にこれらのイベントに参加するのがとても楽しみです。米軍人の教会員と地元の教会員がこれまで以上に仲良くなれると思うのです。これはとてもうれしいことです。」彼女の夫のポール・キャンベル歴史小委員長も口を揃える。

※1―教会の公式出版物や神殿の衣装を販売するストア

歴史小委員会のキャンベル夫妻と，安里コーディネーター夫妻

日米の会員が共に働くコミュニケーション小委員会の皆さん

「わたしは神殿がここにあることに感激しています。わたしたちは20年，沖縄に住んでいるのです。かつて（十二使徒のデビッド・A・）ベドナー長老が来られたとき，誰かが尋ねました。『沖縄にはいつ神殿ができるのですか?』ベドナー長老はこう答えます，『それはわたしたちの信仰によります』と。ですから，ここに住む人々の信仰がすばらしいのです。そのおかげで主は，長いあいだ神殿のなかったこの沖縄に神殿を置くことを許されたのです。使徒の約束は成就し，我が町・沖縄で神殿の祝福を享受できるようになることを，わたしたちは感謝しています。」

2つの神殿に音楽をささげる

音楽小委員長を務める平良（たいら）久（ひさし）兄弟は，2000年の福岡神殿奉献式でも音楽小委員長を果たし，生涯に2つの神殿で賛歌をささげることとなる。「福岡のとき，わたしはもう絶対に泣かないと決めていたんですけれど，『主のみたまは火のごと燃え』を聴衆の方に向いて指揮したときにはもう，こらえていた涙がどっと噴き出して……日の栄えの部屋全体がまさにこの歌詞のように御霊にあふれ，とても荘厳で感動したことを覚えています。」そう平良兄弟は振り返り，言葉を継ぐ。

「その経験をまた，故郷の沖縄神殿において経験できることは，すばらしい……（さらに，）アメリカと日本の会員が一緒の聖歌隊で主を賛美するという，初めての経験なので，とてもわくわくしています。」

今回，日の栄えの部屋の広さの関係から各聖歌隊は8人の少数精鋭で組織される。沖縄ステークと軍人地方部それぞれの聖歌隊が2セッションを分担し，屋外の定礎式では日米合同聖歌隊が歌う。それは，日米の会員の協力で築かれてきた沖縄の教会歴史を象徴しているかのようだ。

沖縄中の人々に知らせる

準備委員会の安里コーディネーターは万感の思いを込めてこう話す。「こんな大きな喜びはないと思います。1986年3月，大阪伝道部から帰還して1週間後のステーク大会でわたしはステーク幹部書記に召されました。その後，最初のステーク会長会で開会の祈りを頼まれました。立ち上がって祈り始めた瞬間に，もう頭の先からつま先まで全身が御霊に満たされて，この部屋にたくさんの先祖の方々がいらっしゃると強く感じました。彼らがこの沖縄に神殿を望み，そしてステーク会長会の中で話される事柄の一つ一つを，彼らにとっての非常に大きな関心事として見守っておられるのを感じたのです。

あのとき以来，沖縄の兄弟姉妹たちは一生懸命，神殿を頂くための準備をしてきたと思います。でも，わたしはそれ以上に，沖縄戦で亡くなった10数万もの先祖の方々が一日千秋の思いで，神殿が沖縄に建てられるようにと，すごく大きな信仰と愛を込めて祈っているのをずっと感じてきました。2020年12月，沖縄神殿用地の奉献の祈りと鍬入れが行われるときに，何万何十万もの先祖の方々が喜んでいるのを，とても強く感じました。

神殿が完成して，わたしたちが内覧した際，あまりのすばらしさに感動し，胸が詰まりました。これほどの神殿を，こんな小さな沖縄のわたしたちに主が下さったことを思い，感謝の念で泣きました。これからどのように御恩を返したらいいのか分からないほどです。

ベドナー長老が言われるように，神殿家族歴史活動と伝道活動を合体させることによって，この神権時代に未だかつてない恩恵を得ることができます。

先祖の方々の望みは，自分の子や孫，子孫が，イエス・キリストの贖いの恵みを通して永遠の家族になることです。それを実現していくために，わたしたちは，神殿家族歴史の業と福音を沖縄中の人々に知らせていきます。先祖の方々が祈っているように，主と，主の贖いが中心となるこの神殿の祝福に子孫の方々を招けるように力を尽くす。これが一番の恩返しかな，と思っています。先祖の方々の愛と信仰を込めた祈りのおかげで，わたしたちが沖縄神殿を頂く祝福にあずかれているとしたら，彼らへ愛と尊敬と感謝を込めて，全身全霊でこの業を進めていきたい。完成した暁には多くの方々を，主と，主の聖約と儀式，および神殿に招けるように頑張りたいと思っています。」

＊＊＊

沖縄県には，政界，財界，教育界，宗教界，マスコミ，米軍など，地域社会の要となるところに多くの教会員がいる。そうした縁もあって，2022年の秋から冬にかけ，ラジオ沖縄の番組「あなたとニー（根）コネクト」を教会の提供で放送することとなり，安里兄弟も出演した。※2「沖縄中の人々に知らせ」る，との安里コーディネーターの意気込みは，決して大げさではない。◆

※2—「神殿・家族歴史を沖縄の人々に」リアホナ 2022年12月号ローカルページ，L5参照

和田長老ビデオシリーズ 3映像を公開

――様々な視点から描かれる，和田少年の改宗の物語

七十人の和田貴志（わだたかし）長老（アジア北地域会長）の少年時代を題材としたビデオシリーズ3本が制作され，4月末に公開された。

それぞれのタイトルは以下のとおり。

- ***ある宣教師のものがたり***―フレッド・アラン長老が語るイスラエルの集合の業―
- ***教会を訪れた少年の物語***―1980年代の「愛し，分かち合い，招く」―
- ***クリスチャンになった少年の物語***―イエス・キリストに頼ることで開かれる自己実現の可能性―

各々のビデオは，視聴者層を想定してストーリーが編集されている。「ある宣教師のものがたり」は宣教師を対象としているが，「すべての会員は宣教師」なので，あらゆる会員向けでもある。当時15歳だった和田少年に初めて福音を紹介した宣教師アラン長老の視点で，福音を伝えるとはどういうことかを描く。

「教会を訪れた少年の物語」は会員向け。和田長老が1980年に初めて足を踏み入れた長野支部の会員たちと，和田少年の視点から，会員でない人々をどのように教会へ招くかを描く。

「クリスチャンになった少年の物語」は和田長老視点で，自身の改宗と，キリストの教えが人生をどのように切り拓いていったかを描く。宣教師と出会い，高校生でアメリカに留学し，そこで伝道と教育を終えて社会の第一線で働く――その折々でキリストに頼るときに何が起きたのか。対象は，教会員であるなしを問わず，これから人生を築こうとする若い世代。今年のユーステーマ聖句「わたしを強くして下さるかたによって，何事でもすることができる」[※1]とも深く関連している。このストーリーの記事版は，リアホナ2023年4月号ローカルページに掲載された。◆

●和田長老ビデオシリーズのご視聴はこちら
https://bit.ly/3V0uYsR

今月のNews Headlines

●ニュースルームはこちら！
https://news-jp.churchofjesuschrist.org

- ◉ クリスティン・イー姉妹，沖縄，グアム，ミクロネシアの島々の聖徒たちのもとを訪れる 4月18日リリース
- ◉ 日本沖縄神殿が一般公開される――オープンハウス・奉献式の日程を発表 4月18日リリース
- ◉ 2023年5月25日スタート「家族を強める」オンラインクラス参加申込フォーム 4月17日リリース
- ◉ 2023年5月9日スタート，リソースクラス「結婚生活を強める」参加申込フォーム 4月17日リリース
- ◉ 東京にある米軍横田基地第374空輸航空団 国家朝餐祈祷会 4月16日リリース
- ◉ 救い主に従うと決意するスーザン・H・ポーター会長とアジア北地域の青少年 4月11日リリース
- ◉ 2023年4月の総大会リーダシップ部会にて，61名の新しい地域七十人が召される――ハルボーソン長老が召される 3月31日リリース
- ◉ 福音の真理に慰めを見出すアーティスト――受賞アーティストが喪失と希望について分かち合う 3月28日リリース
- ◉ ネルソン大管長の勧告を聞いたアジア北地域の聖徒らの12の経験 3月15日リリース
- ◉ ヤングシングルアダルト，神殿に集まり，食事と交流を楽しむ 3月2日リリース
- ◉ 復活祭の日曜日を遵守するため，4月の教会の集会スケジュールを変更 2月28日リリース
- ◉ 年に一度のお祭り（ひなまつり）が奉仕の機会に 2月21日リリース
- ◉ フィギュアスケート選手の宣教師，家族を永遠に結ぶ 2月12日リリース
- ◉ 福祉自立支援サービス部，子育て支援クラス「家族を強める」を2月16日(木)から開催 2月7日リリース

※上記リストは日本発信または日本に関連する記事のみです。海外発信記事（日本語）も数多く配信しています。

Inviting All to Receive the Gospel
——命の水へ招く

左から，江戸るあ姉妹，
フェヘイラ・カンタリセ姉妹，
藤井洋子姉妹，小西メリー姉妹。
この時期，姉妹宣教師は3人同僚だった

「人にはできない事も，神にはできる」※1

——誘惑に立ち向かうための贖いの力——金沢ステーク小松ワード　江戸（えど）るあ姉妹 / 東京ステーク麻布ワード　藤井洋子（ふじいようこ）姉妹

1990年の春先，ユタ州プロボにあるブリガム・ヤング大学（BYU）の寮に一人の日本人女性が入寮した。当時30歳の藤井洋子さんである。働いて貯めた資金で念願の語学留学の夢をかなえるために渡米した洋子さんは，別の大学で4か月学んでから，学費の安さに引かれてBYUに移ってきたのだった。

プロボは洋子さんにとって居心地のよい街だった。「BYUの前にいた大学のある街は白人が多く，アジア人や黒人は眼中にないという冷たい空気がありました。でもプロボは人種に関わらずフレンドリーな雰囲気で，大学の寮でもみんな親切でした。」

ある日，寮で出会った姉妹宣教師に誘われて大学の中にあるワードの聖餐会に出席するようになる。数回出席したとき，宣教師から日本語の『モルモン経（けい）』※2を贈られた。宗教にあまり興味はなかったものの，手書きのメッセージを添えてプレゼントしてくれた優しさがうれしかった。「バプテスマについても紹介されたんですけど，そこまでの気持ちはないからって断りました。」

それから間もなく，洋子さんは歯の治療のため日本に一時帰国することになった。名残を惜しむ姉妹たちに「必ず戻ってくるから！」と約束してアメリカを離れた。しかし，治療は終わったものの事情があって再び渡米することができなくなってしまう。

BYUプロボ本校

宣教師たちから贈られた『モルモン経』を見るたびに，約束を守れなかった心苦しさがよみがえった。「とても心残りで，せめて手紙を書けばよかったとずっと後悔していました。」そのまま，32年の歳月が流れた。

『モルモン経』に導かれて

2022年3月。東京ステーク麻布ワードで奉仕していた専任宣教師の江戸るあ姉妹は，隣の中野ワードの長老たちから1人の女性を紹介される。その人は，以前アメリカでもらった『モルモン経』を見つけて教会へ連絡したという。江戸姉妹たちはLINEを使って連絡を取った。彼女こそが，33年前BYUに語学留学していた洋子さんだった。

江戸姉妹は初めて接したときの洋子さんの印象について「助けを求めている感じでした」と振り返る。当時，洋子さんは精神的な不調からお酒が手放せなくなり，アルコール依存症に苦しんでいた。「生死をさまようほどの経験もして，このままでは本当に死んでしまうかもしれないと思ったときに，アメリカでもらった聖典を2冊持っていることを思い出したんです。」留学中，洋子さんは最初に通っていた大学でも別の宗派の教会に通い，日本語の聖書をもらっていた。聖書でも『モルモン経』でもどちらでもいいから，自分の助けになる本を見つけたい。「も

※1—ルカによる福音書18：27
※2—現在の『モルモン書』

し最初に聖書を見つけていたら，そちらの教会に行っていたかもしれません。」一心に段ボール箱を探った洋子さんが先に見つけたのは『モルモン経』だった。手に取ると姉妹宣教師たちの優しさ，街の人々の温かさがよみがえってきた。あのときの愛情が今のわたしには必要だ――そう感じた洋子さんは，すぐにインターネットで末日聖徒イエス・キリスト教会を検索し，連絡を取ったのだった。

洋子さんの話から，江戸姉妹と同僚は彼女が置かれている大変な状況を理解する。ところが一度目のコンタクトの後なかなか次の約束を作ることができない。当時は新型コロナウイルス流行の影響で国内の宣教師が不足しており，江戸姉妹たちも県をまたいで４つのユニットを掛け持ちし多忙な日々を送っていた。また洋子さんの状況は理解していたものの，「あまりしつこくしてはいけないかも」という日本人特有の遠慮もあったという。

そんなとき，江戸姉妹の同僚が転勤することになる。新しくやってきたのは小西（こにし）メリー姉妹。ブラジル人と日本人のハーフだった彼女は，日本へのビザが発給されるまでの間ブラジルで伝道していた。洋子さんの状況を伝えられた小西姉妹は「すぐ助けよう！！」と意気込む。「（依存症の人には）毎日会ったほうがいい，急いで連絡しないと！」それからすぐに洋子さんとのレッスンが始まった。

ブラジルでは文化的な背景から，アルコールやドラッグ，コーヒーなどの依存症に悩む求道者が多い。依存症の人々に伝道するためのトレーニングを受けていた小西姉妹は最初のレッスンで「知恵の言葉」について教えることを提案する。これまでも依存症の人々のニーズに合わせてレッスンを進めてきた経験からだった。早い段階でバプテスマの予定を作ることも重視していた。「小西姉妹は，予定を立ててからのほうが依存症を克服できる可能性がある，キリストの力を受けられるから，と言っていました。」しかし，ブラジルでは当たり前の伝道方法も日本で日本人同僚と働いてきた江戸姉妹には違和感があった。頻繁に意見が食い違い，あるときは乗っていた電車を途中下車して駅のホームで徹底的に話したこともあった。そんな二人の一致を可能にしたのは，小西姉妹が転勤してきたときに決めた伝道目標だった。「“Prioritize relationship of God（主との関係を第一にする）”人じゃなくて神様を第一にしたいね，と話してたくさん祈りました。」

藤井姉妹と江戸姉妹

同僚の小西姉妹と

伝道を終え，故郷の石川県小松市に帰還した江戸姉妹

２回目のレッスンでバプテスマの予定を立てることを勧めたとき，洋子さんは「お酒をやめられるなら何でもしたいです」と決意する。予定日は約３週間先の５月１日になった。

断酒の難しさと夢遊病

前向きにレッスンに取り組んでいた洋子さんだったが，お酒を断つことは簡単にはいかなかった。専門のクリニックに通院し，治療薬も処方されていたものの毎日服用できない。「抗酒剤※3っていうのがあって，それを飲んでからお酒を飲むと部屋中のたうち回るほどの苦痛が７時間も続くんです。一度経験すると同じ思いをするのがいやでお酒を飲まなくなる。だから毎朝服用しないといけないのに，人間はずるいから『今日は飲んじゃうかも』っていう日はあらかじめ朝，抗酒剤を飲まないようにしちゃうんですね……。」

さらに洋子さんの断酒を難しくしていたのは，幼い頃からの夢遊病癖だった。「寝ているのに布団からむくっと起き上がってドアを開けて出ていく。それを慌てて連れ戻すことが何回もあったと父親から聞かされていました。」同じことが大人になった洋子さんに起こった。真夜中になると夢うつつに財布を持って出て行き，深夜営業のスーパーで焼酎などを買って飲んでしまうのである。「子供の頃のように全く覚えていないことはなくて頭

※３―アルコール依存症の薬物療法で用いられる薬。再飲酒防止を目的としており，服用後に飲酒すると吐き気や顔面紅潮，頭痛等の反応を引き起こす。シアナマイド，ノックビンなどがある

のどこかで『あれっ，わたしスーパーに来ている』と自覚している自分もいるんですが，ちゃんと覚醒しているわけではないのでコントロールできない。でもお酒を飲みたい気持ちは潜在的にあるので買ってしまう，という状態でした。」どうすればよいのか洋子さんは途方に暮れる。お酒を飲んでしまった，と報告するたびに「また頑張りましょう！」と励ましてくれる江戸姉妹たちにも話せなかった。

同じ頃，江戸姉妹たちは，洋子さんについて毎晩祈る中で，ある導きを受けていた。それは，洋子さんに神権の祝福を受けさせるように，というものだった。「でも，洋子さんは頑張っていたし，レッスンはオンラインで直接会う機会もなく，いつ勧めたらいいのか迷っていました。」

「死ぬまでお酒はやめられない」

バプテスマの予定を作ってから最初の日曜日，洋子さんは麻布ワードに出席した。膝の悪い洋子さんは曇天の下，杖をついて教会まで足を運んだ。対面で顔を合わせるのは初めてだったが，江戸姉妹は洋子さんの様子がいつもと違うと感じる。「ひどく落ち込んでいるように見えました。」

２時間プログラムが終わってから，これまでもレッスンに同席してくれていた麻布ワードの教会員夫妻も交えて話をした。洋子さんは何度も「無理，わたしにはもう無理です……」と繰り返す。それから自身の夢遊病について打ち明けた。絶句する江戸姉妹たちに洋子さんは憔悴しきった様子でつぶやく。「寝ている間のことなんてわたしにもどうしようもできません，だから無理なんです……。」そして，追い打ちをかけるように起こった数日前のクリニックでの出来事を話し始めた。

洋子さんが週１回通っていたのはアルコール依存症専門のクリニックだったが，看護師から「このクリニックでお酒をやめられた人はいないよ。やめられたのは死んだ人だけだね」と言われたという。

「アルコール依存症の患者さんは肝臓を壊して亡くなる人が多いし，お酒をやめられないことで精神的に病んで自殺してしまう人もいる。クリニックで見かけていた方が来なくなって，自殺したんだよっていう話もよく聞きました。」それでも，頼みの綱だったクリニックでの言葉は洋子姉妹の心を深くえぐった。

話し終え，重たい空気が流れる部屋の中で江戸姉妹と小西姉妹は顔を見合わせる。今こそ神権の祝福を勧めるときだ。そう思った。

神様の涙

麻布ワードが使用している神殿別館には訪問者センターが併設されており，２階には「イエス・キリストの生涯と教え」について紹介する展示室がある。部屋の中央に置かれたいすに座り，洋子さんはレッスンに同席してくれていた神権者の兄弟から祝福を受けた。兄弟が手を置いた瞬間，頭が温かくなったという。「頭全体がほわんと温かくなって，祝福してくださった兄弟の手の温度とは全く違う温かさでした。」主は神権者を通して洋子さんに深い愛を伝えられた。「神様はあなたのことをよく知っています。あなたのことをすべて受け止めます，と言われて，ありがとうございます，という感謝と神聖な気持ちで胸がいっぱいになりました。」

同席していた江戸姉妹は，兄弟から発せられる言葉の一つ一つに力強さを感じていた。「洋子さんの依存症について，お酒をやめられないというようなネガティブな言葉は，一切ありませんでした。」

バプテスマバースデーケーキ

藤井姉妹に神権の祝福をし，バプテスマを施してくれた兄弟と奥様が，バプテスマを祝ってくれた

祝福を終え，洋子さんと別れた江戸姉妹たちが麻布ワードを出ると，雨が降っていた。不思議な雨だった。傘を持っておらず濡れながら帰ったが，濡れている感じがしない。「きれいな雨でした。洋子さんの祝福を神様が喜んで涙を流しておられるように感じました。」

「薬を飲んではいけません」

祝福から数日たった夜，洋子さんは自宅で，薬を飲もうかどうしようかと考えあぐねていた。お酒をやめたいが，抗酒剤

祈り終えたとき，声が聞こえました「薬を飲んではいけません，お酒もやめなさい」

東京神殿訪問者センター2階展示室の静かな館内に藤井姉妹が祝福を受けたいすが置かれている

藤井洋子姉妹のバプテスマ会

をはじめとする薬は効果が強い分，体に負担がかかっているのではないか。ずっと心配だった洋子さんは，いつも祈るよう江戸姉妹たちに勧められていたことを思い起こす。祈って決めようと，ベランダの前に座った。「天のお父様，わたしをアルコールから遠ざけてください。薬も飲みたくないです，どうかわたしを助けてくださいって。わたしは長く祈るのが苦手なので短い言葉でしたけれど，心から祈りました。」

祈り終えたとき，どこからともなく声が聞こえた。――薬を飲んではいけません，お酒もやめなさい――。

「一瞬空耳かな？ とも思いましたが，はっきり聞こえました。」これは，神様の声だ！ と洋子さんは確信する。

主の言われたとおりにしようと決めた洋子さんは，その日から治療薬とお酒を同時にやめた。導きを受けて決めたとはいえ，これまでなら考えられない大胆な試みだった。いつまたお酒を飲みたくなるのかと思ったが，何時間たってもお酒を飲みたくならない。そのまま数日がたったとき，洋子さんは自分の祈りがこたえられたことを知る。「――ああ，わたしは天のお父様のおかげでお酒からも薬からも解放されたんだ！ って思いました。」

３日間お酒を飲まない状態が続いたとき，洋子さんは江戸姉妹たちにお酒をやめられていることを伝えた。

反対の声――江戸姉妹たちの試練

洋子さんが知恵の言葉を守っているという報告は本当にうれしかったものの，その頃江戸姉妹たちもまた試練の時を迎えていた。周囲から洋子さんのバプテスマの予定に反対する声が上がり始めたのである。「いろいろな人から，バプテスマを急ぎすぎじゃない？ よく考えたほうがいいよって言われました。」数週間で断酒しバプテスマを受けることが当たり前のブラジルから来た小西姉妹にとって，洋子さんのスケジュールは無理のあるものではなかった。同僚の江戸姉妹とも何度も話し合い，祈った上で納得していたのに，周囲の理解を得るのは難しかった。「延期を勧めてきた人たちの中にはわたしたちが尊敬していた宣教師もいました。心配してくれていることは分かっていましたが，ショックでした。」

洋子さんの改宗についてポジティブな姿勢を崩さなかった小西姉妹も，度重なる反対の声に落ち込んでしまう。その姿に江戸姉妹ははっとした。「いつも明るい小西姉妹が引っ張ってくれていたけれど，彼女に助けられてばかりじゃだめだ！ と気づいたんです。」そして，野出明広（のであきひろ）伝道部会長が，以前ゾーン大会で話した言葉と聖句を思い出す。「『人には限界がありますが，主にはありません。わたしたちは人間として限界を作りますが，これは主の業です，限界を設けないでください』という言葉と，『人にはできない事も，神にはできる』の聖句でした。」

それから江戸姉妹と小西姉妹はさらに熱意を込めて主に祈り，いつも伝道部会長の言葉と聖句を思い出すように努めた。「ポジティブな気持ちをなくさないように，『行ける！』『できる！』と合言葉のように言い合っていました。」二人で心を奮い立たせ，洋子さんのバプテスマの準備に邁進（まいしん）した。昼は４つの担当エリアを駆けまわり，毎晩オンラインでレッスンをする毎日。姉妹たちの信仰と熱意を感じた洋子さんも毎日モルモン書を読み，アルコールの誘惑に負けないために祈ってバプテスマに備えた。

祈り続ける日々

そして迎えた 2022 年 5 月 1 日，洋子さんは麻布ワードでバプテスマを受けた。水から上がったとき，洋子さんを大きな喜びが包んだ。「これで本当にわたしは天のお父様の娘になれたんだ！ と思いました。」

バプテスマ会の翌日，江戸姉妹は野出会長に LINE でメッセージを送った。洋子姉妹が無事にバプテスマを受けられたことを報告し，これまで信じ支えてくださったことへの感謝を伝えた。ほどなく

して会長から返信がある。「江戸姉妹が主を信じてくださったことが何よりうれしいです。」

＊＊＊

2023年4月。バプテスマを受けてもうすぐ1年を迎える洋子姉妹は，今もアルコールの誘惑に負けないように祈り続ける日々を送っている。

「誘惑に立ち向かうために大切なことは『続ける』ことです」と洋子姉妹は言う。「天のお父様を信じて祈り続ける，これだけです。」朝起きて「今日もお酒を飲まなくてすむように助けてください」と祈り，夜は「今日も飲まなくて済んだことを感謝します」と祈って床に就く。そうやって，薬とお酒をやめることを決意したあの夜以来，一滴のアルコールも口にせず過ごしてきた。今もクリニックに通ってはいるが，とても体調がいいと洋子姉妹は笑う。外出の際に手放せなかった杖も使っていない。「整形外科で教えてもらったリハビリを毎日続けていたら，良くなっていたんです。でもこれもリハビリだけの効果ではなくて，天のお父様の助けがあってのことだと思います。」

1年半の任期を終えて2023年2月に帰還した江戸姉妹は，伝道中に主がくださった贖いの力と，その力を信じ続けた洋子姉妹に深く感謝している。「贖いの力は，信じるときに，愛によって働くと学びました」と江戸姉妹は語る。「わたしたちは皆，誘惑を受けますが，誘惑を受けているときでさえも主は，信じるタイミングを与えてくださる。洋子姉妹が祈ったことも，わたしたちが『できる！』と言い合っていたことも，全て信仰による選びでした。そして信じて選んだらすぐに，主は応えてくださるんです。」

4月9日，日本中のユニットでイースター特別聖餐会が行われた日，江戸姉妹はワード宣教師に召された。「人にはできない事も，神にはできる」――試練の中で培った主への信頼と証を糧に，江戸姉妹の伝道はこれからも続いていく。◆

専任宣教師

●上から氏名，任地（伝道地），出身ユニット，MTC入所日／着任日

＊掲載は自己申告制です。宣教師の方は着任の前後に写真と情報を伝道部所定のウェブフォームまたはメールでお送りください。

電子メール：**JPNLiahona@churchofjesuschrist.org**

水野 拓人（みずの たくと）
東京北伝道部
神戸ステーク
神戸ワード
2022年11月21日
プロボMTC入所

石川 誠矢（いしかわ せいや）
名古屋伝道部
仙台ステーク
長町ワード
2023年2月9日
プロボMTC入所

髙橋まなみ（たかはし）
神戸伝道部
桐生ステーク
熊谷ワード
2023年2月20日
プロボMTC入所

牧口 あや（まきぐち）
名古屋伝道部
神奈川ステーク
大和ワード
2023年2月20日
プロボMTC入所

林田 優菜（はやしだ ゆうな）
札幌伝道部
福岡ステーク
筑紫野ワード
2023年3月13日
プロボMTC入所

山本 哲也（やまもと てつや）
東京南伝道部
京都ステーク
下鴨ワード
2023年3月13日
プロボMTC入所

小山 主税（こやま ちから）
オーストラリア・ブリスベン伝道部
京都ステーク
茨木ワード
2023年3月17日
ニュージーランド・オークランドMTC入所

小林 恵碧（こばやし よしあき）
イギリス・ロンドン伝道部
北海道北ステーク
旭川第二ワード
2023年3月25日
イギリス・プレストンMTC入所

岡本 拓也（おかもと たくや）
福岡伝道部
東京西ステーク
高尾ワード
2023年4月3日
プロボMTC入所

京面 慶也（きょうめん よしや）
神戸伝道部
東京西ステーク
府中ワード
2023年4月3日
プロボMTC入所

松岡 功（まつおか いさお）
札幌伝道部
岡山ステーク
福山支部
2023年4月24日
プロボMTC入所

古川 幸浩・るみ（ふるかわ ゆきひろ）
福岡伝道部
長崎地方部
佐賀支部
2023年2月13日着任
2023年2月28日
MTCリモート訓練開始

役員の異動

2023年1月23日から2023年3月5日までに教会組織指導者住所録で更新された役員の異動（敬称略）

- 日本新潟地方部
  第二顧問：Steven T. Warr
- 日本東京南ステーク
  第二顧問：Benjamin A. Shirley
- 東京南ステーク横田軍人ワード
  ビショップ：Jacob J. Quinn
- 東京ステーク渋谷YSA支部
  会長：村上（むらかみ） 徳高（のりたか）
- 日本松山地方部
  第一顧問：高木（たかき） 光茂（みつしげ）
- 松山地方部高知支部
  会長：佐々木（ささき） 俊樹（としき）
- 日本長崎地方部
  第一顧問：一丸（いちまる） 俊雄（としお）
  第二顧問：浜口（はまぐち） 純也（じゅんや）
- 長崎地方部佐世保支部
  会長：辻郷（つじごう） 美太郎（よしたろう）
- 熊本ステーク八代（やつしろ）支部
  会長：福島（ふくしま） 友貴（ゆうき）
- 沖縄軍人地方部嘉手納（かでな）軍人支部
  会長：Jared C. Smithson
- 沖縄軍人地方部具志川（ぐしかわ）軍人支部
  会長：Andrew P. DeWitt

ASIA NORTH AREA (JAPANESE)